

会 議 議 事 録

会 議 名	令和元年度 学校関係者評価委員会		
開 催 日 時	2019年 6月21日(金) 13:30～16:30		
会 場	東京福祉専門学校 第3校舎 4-1 教室		
参 加 者	委員等	8人	卒業生代表：西田 憲司様（特養きく） 保護者代表：田中 きよ子様 高等学校代表：高部 英彦様（正則学園高等学校） 地域代表：桜井 道夫様（清新北ハイツ自治会会長） 業界関係者：平方 俊雄様（特養なぎさ和楽苑） ：若松 弘樹様（児童養護施設聖友学園） ：皆川 隆太様（就労移行支援事業所 natura） ：中里 武史様（東京都作業療法士会）
	事務局	16人	東京福祉専門学校 学校長 小林和弘 副学校長 白井孝子 滋慶イースト本部本部長 小川昭久 事務局長 高橋友深 教務部長 木村早希 学部長 堀 延之(社会・心理学部) 学部長 坂本美生（一般養成学部） 学部長 高橋利明（ケアワーク学部） 学部長 小泉恭野（こども保育学部） 学部長 高野大輔（リハビリテーション学部） 学部長 小林紀和子（コミュニケーション学部） 広報センター長 小泉佳代 学生サービスセンター長 奥村丈司 キャリアセンター長 鈴木 恭雄 コンプライアンスセンター長 斉藤哲也 書記 藤城佳奈（学生サービスセンター）
会 議 録	<p>1. 会議の概要</p> (1) 学校長挨拶 (2) 各学科の授業等の視察 (3) 学校関係者評価委員ご紹介、今年度新任委員への委嘱状交付 (4) 平成28年度自己点検・自己評価結果報告 ならびに質疑応答 (5) 本部長挨拶 <p>2. 平成28年度自己点検・自己評価結果報告 (昨年度との相違点を中心に事務局より説明)</p>		

●教育理念・目的・育成人材像:評価3

なごみの家 葛西南部について「地域共生社会構築の拠点」へ変更

●学校運営:評価3

情報システム 2019年度から「業務システム」を導入。サイボウズの導入でペーパーレス54%カット。業務効率化を図っている。

●教育活動:評価3

教育目標 3つのポリシーをより明確化(アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、成績評価・単位認定について GPAの導入 学費無償化への対応

●学修成果:評価3

就職率 95% 3月末で17名が残っていたがキャリアセンター職員2名がキャリアコンサルタント取得し、学生のキャリア支援体制強化。

資格取得率

3→2へ評価を下げた 精神保健福祉士、作業療法士科、介護の留学生が課題。

特に留学生は漢字圏ではない学生の対応に苦慮しているため、日本語学校とも連携しながら取り組んでいきたい。

作業療法士科はベテラン教員の採用も取り組み、1年次からモチベーションを保つ。

卒業生の社会的評価

11月23日に2019年3月卒業対象の学生にむけた同窓会を実施する予定。

離職率防止にもつなげる。

●学生支援:評価3

就職等進路 WEBで求人票をタイムリーに閲覧できるようにしている。

中途退学への対応(木村)

2→3 退学率が大幅に改善

特に留学生の退学率が改善

「見える化シート」の作成・活用をしている。

「出欠見える化シート」I padで管理し、リアルタイムで出欠を確認している。

→教育行事や模試などの出欠も把握できるように管理の徹底

修学資金・給付金の使用 作業療法士科夜間部の訓練給付金が10月には開示予定

卒業生・社会人 卒業生向けのケアマネージャー講座、保育士キャリアアップ研修

介護担い手研修等の開講

●教育環境:評価3

教育環境 なごみの家の教育的活用・図書室の環境改善 2ヶ月間で50名ほどの利用

書庫の鍵をなくし、また福祉のマンガも多く取り入れ学生が利用しやすくなった。

CSS実習室(コニカミノルタ)を第1校舎に設置

全校舎Wi-Fi環境設備

防災・安全管理 防犯カメラの設置

●学生の募集と受け入れ:評価3

入学選考 WEB出願・WEBAOエントリー本格導入

●財務:評価3

昨年からの変更点は特になし

●法令等の遵守:評価3

法令順守 高等教育無償化元年に情報公開や個人情報保護の体制もより強化

●社会貢献・地域貢献：評価3

社会貢献・地域貢献 なごみの家の活動で地域貢献大賞を受賞

ボランティア活動 カリキュラム内にボランティアを導入

社会福祉士科で「デイジー」というボランティアサークルが活動している。

3. 委員からの質問、ご意見

平方様

ノートに文字を書いていないことが驚き。タブレット端末で授業をやっている事実に驚き。第1校舎のSSC実習室などICTが進んでいっていることを学んだ。現場が遅れているのではないかとも思った。時代は進んでいるなという感想。

→(高橋利)幅広い年代の学生に教育をしていく中で、一人ひとりが主体的に学べる環境を整えたい。実習室も更に有効に活用できるようにしていきたい。

若松様

事業計画がWEB上で閲覧できるか？何を重点項目にしているのか？

→(高橋)「学校おもしろ化計画」を1番重要視して授業改革をしている。5ヵ年としては、福祉の分野は学生募集をきちんと定員を埋める、退学者の減少、国家資格取得率の向上

高部様

教員は教えるより、学生が自ら考える教育に代わっていくので、すでに取り入れていていいと思った。学生が入学後の満足度をあげるかが重要だと思う。子どもの数が減っていく中で出願率をあげていくことが重要課題になってくると思う。

今はロコミが最重要広報。高校でも大きな入試改革をしているので、参考にしたい。

→(小泉)学生の生の声を配信させられるように、実際に授業動画の公開や学生の声をHP、SNSに配信している。

学生が自発的に「今日の授業楽しかった！」とSNSに配信されるような授業を展開していきたい。

中里様

ICTの活用ができる人材育成という視点で、ICTの活用は賛成。良さを知ってもらうことが重要。卒業生が現場での「ウケ」はいい学生だけではなく学術的に根拠付け等できる人でいてほしいので、卒業生のフォローもできる体制があると嬉しい。

→(高野)

FACEBOOKで200名ほどの卒業生とつながりがあるので、この財産を生かして卒後支援支援をしていきたい。

皆川様

見える化シートについて。就労支援でも見える化は非常に大事。障がい者支援でもWEBを使って日記交換のようなその日の体調、スケジュールを見えるようにして対象者が明確に目標に向かっていけるように活用しているので、どの業界でもこういったツールの活用は共通なんだと思った。

事業所でもどう組み込んでいるか検討中。

→(木村)

学びのポートフォリオをどう残していくかが課題。

今は見える化シートは学生には開示していないが、今後は学生も教員も一緒に活用できる学びの軌跡を残せるものを導入したい。

→(堀)

学んだことの蓄積が学生自身が見えるように、それが就職時にも活用できるかが今後の課題。E-ポートフォリオのような形で取り組んでいきたい。

→(坂本)

ロイノートを活用することで、演習系の授業で自分の意見やクラスメイトの意見が見えることができるので、社会福祉士として多様性が見えるという意味では非常に効果的。

桜井様

スマホなどの端末を使って若い世代は多様な使い方をできるので、簡単に復習ができる。スマホなど身近なもので学習できるのはいい。自治会でも見守りをどう効率化するかという話しは出ているが、なごみの家の取り組みなど参考にしてみたい。

→(小泉恭)

委託訓練生など年齢層が比較的に高い学生でも放課後残って活用している。

田中様

タブレット活用には驚いた。実習生が留学生2名ほど受け入れているが、実習日誌を電話しながら書いているのは気になったが、楽しく生き生きと実習している様子を見ると刺激を受けた。

→(小林)

イヤホンを使いながら生活している留学生は確かに多い。文化の違いで注意・指導は難しいと感じるが現場からこうしてご指摘いただき再教育していきたい。

文明(日本では当たり前にあるものがない等)の違いにも気をつけて接していきたい。

西田様

現場がいくら「心」で人材を待っていても人は来ない。

実際の授業を見たことで施設で抱えている課題の解決方法を少し見出せた。学校で ICT スキルを学ぶことで現場にでたときにすぐに活用できる。それは今の職員にはない力。

ロイノート等で多様性を受け入れるスキルを学んでいる。学生の時代に俯瞰でものを見れるチカラは大事で、専門職同士のこだわりのようなものを俯瞰的に見れないことでトラブルに発展することもあるので、そういった俯瞰性を職場にも取り入れたい。学校の悩みを施設が解決することも大切だし、施設が困っていることを学校でヒントをもらうことの重要性を今日気づけたので、とても良かった。

4. 終わりに (小川)

学園として一番力を入れているのは ICT、IOC 化。

働き方改革や労働人口の減少に伴い、教職員の負担感を減らしながらもサービスの向上を図っていくために有効活用していきたい。

今の若年層はこどもの頃からタブレットを活用しているのが当たり前の環境なので、

先生は「教える」ではなく「ファシリテーター」としての役割になり、時代の変化に合わせて対応をはかるべくトライアルしている途中段階。医療・福祉分野では外国の方の参入も増えているので、皆様からいただく意見を参考にしながらお互いにとってより良い会にしていきたい。

以上